⑥ 橘川中山間生産組合

Ｉさん：　大方橘川地区は、平均年齢が 70 歳近くになり、現在は多分 19 戸はないんじゃないかと思います。全体の人口は 20 人少し超えるぐらいです。橘川で私たち中山間生産組合は、10 年前に国の事業を取り入れ、高齢になると田畑へ行く道の草を刈ることや修繕することがままならなくなるということで簡易路線を舗装しました。その後はコスモス祭や地域にあるものを加工したりしましたが、何様にも小さな部落ですので、例えば、チラシを作ってもらって、入れてみても人がたくさん来て地域がそれを受け入れるだけの力がなかったと思います。本当の手作りで５年間活動してきました。私達が作って投げたりするおもち、これは実際においしいんですが、収穫も少ないです。でもこれはずっと続けてます。「稲木（いなき）」というもので自然乾燥した手作りのおもちを投げることによって、いつの間にか口コミとなり、多くの方がおいでてくださり、５年目を何とか迎えたようなことです。

　また、（旧馬荷小学校を活用して活動している）若者自立塾の塾長さんから何かできることはないかとお話をいただきまして、自立塾の方に畑の傍を刈ってもらったりしておりました。この荒れた畑の地権者の方とお話ししましたら、「畑をどんなにしてもらってもいいです」というお話をいただいたので、これを開墾し、今は自立塾の方が使っています。この高齢化した部落を一歩一歩前へ進めて、この部落を消滅させたくないという気持ちで、馬荷と比べると狭い範囲ですが、荒れ果てた田圃を、町・県の助成を受けることで、開拓することができました。しかし、部落の中にはもともとそれを整備するだけの力がありません。それで募集してありましたら、やっとその目途が立ちました。有機のものを作りたい、そういう方がおいでまして、やっと肩の荷が下りたような形です。ただ、今は助成されるお金を活用してきたけれど、来年からどうなるかと思います。でも、１年でも２年でも前を見て進めていきたいという気持ちでおります。

知事：　１年でも２年でもというお気持ちですね、先々まで続いていけるようになるためにも、ぜひ若い人に入ってきてもらえればいいですね。それがなかなか簡単なことじゃない、それが一番難しいことなんだろうというふうに思います。

Ｉさん：　若い人に帰って来てもらうのはまず無理なんでしょう。今はＩターンというような形で何か仕事を持ちながらやりたいという方に入っていただいています。昨年は１人有機栽培で入ってきてくれた方がいますので、何とかしてそういうことを続けて少しでも機会ができたらいいと考えています。

「対話と実行」座談会
かきせ川地域づくり協議会
橘川中山間生産組合

知事：　出身地にかかわらず、農業をやりたい若い人は土地がなくて困っているというパターンが結構あります。農業大学校の生徒さんと毎年お話をさせていただく機会があるんですが、「僕のうちは農家やないので土地がなくて農業ができません」という子が結構います。多分ここにミスマッチがあって、農業をやりたいと思っている若者は少なからずいる、だけど農業は土地がないとできないので、簡単にやり始めることができない。もう１つは、技術をつけることがものすごく難しい。だから、教えてくれて導いてくれる人が要るだろうと思っています。お互いのニーズが合うようなシステムができればいいなということで、今年からそういう取り組みを始めたところです。まだ始まりの段階ですが、空いてる土地を貸してもいいと思っている方の情報を１か所に集約をし、さらに県外から移住したい、帰ってきたい、新たに就農したいと思っている人の情報を県庁で１つに集めて、いろいろな情報を紹介していく。地域に入ってからもずっとフォローアップしていくような仕組み、まず情報を集めるため、県庁に移住コンシェルジュを雇い、その取り組みを始めたばかりです。その結果として、去年の新規就農者が高知県全体で大体 110 人ぐらいでした。今年から研修もセットにし、土地の紹介もする取り組みも始めた、さらに研修期間中の生活費を一定以上は保障しましょうということでやり始めたら、今年は恐らく 150 人は就農することになりそうです。全県内での取り組みですから、この地域にすぐ結びついてくる話ではないかもしれませんが、取り組みをしたことで去年より就農する人が 1.5 倍ぐらい増えたのもまた確かであると思います。中山間地域の集落を維持していくというのはなかなか難しいですが、他方、若い人が入ってくれないと維持できないこともまた事実だと思いますので、若い人たちが就農できる仕組みづくりを私達ももっと努力をしていくべきだと思います。またそういう仕組みや募集の仕方をお伝えしますので、ささやかなことになるかもしれませんが、ぜひ使っていただければと思います。